

京都

KYOTO

不思議ふしぎ!?

京都に隠れた意外な秘密を紹介します

女性の名前が町名に？

京都には古い由緒を示す地名や往時を偲ぶ町名が数多く残っています。歴史を大切に、自分の町に誇りをもつ都ならではないでしょうか。その中に一人は実在、一人は架空の女性の名をもつ町があります。

が建てられています。常夏と夕顔の二つの名前を持ち、鮮烈な源氏との出会いから衝撃の最後まで、薄倖の宿命の中で、短くも強烈な印象を残した女性でした。

架空の女性の町名は堺町通高辻下ルの「夕顔町」。源氏物語のヒロインの一人「夕顔」にちなむ名前です。物語のなかで「五条なる家」の近くと登場するのがこのあたりか、ということで今「夕顔之墳」と刻んだ石標と宝篋印塔

実在しない女性が住んだ町が実在する。これは京都の妖かし？ いえいえ、これが都の厚み。夢が現と交錯し、歴史が現実と溶け合う。虚実のあわいに生きる「今」の危うさを感じます。

さて、次は実在の女性の町。それが大宮通寺之内下ルの「伊佐町」です。伊佐とは

足利義輝に仕えた家臣野本式部少輔輝久の妻の名前。伊佐殿とよばれたこの女性が住まいたのが町名の由来です。女性の町名はなかなか残りにくいもの。天皇の妻など高貴な身分でなければ残らないにも関わらず、將軍の臣下にも過ぎない武將の妻の名が五百年の時を超えて残り、多くの人がそこで今なお営みが続けているのは本当に素晴らしいことです。

こじんまりとした境内に可憐な花が咲く、落ち着いた寺院ですが、ここは亡き夫の菩提を弔うために、伊佐が建立した追福のお寺。慧光とは夫・輝久の法名なのです。この慧光寺が現在地に移転する以前にあった場所が、いま「元伊佐町」と呼ばれています。夕顔といい、伊佐殿といい一体どんな女性だったのでしょう。思っても詮無いことですが、実に魅力的な方だったことだけは確かでしょう。（京都学園大学非常勤准教授堤勇二）

京都好きを大好きに

歴史や文化、全てが源流へとたどり着く古都。京都を知ることには日本を理解すること。

京都検定

京都・観光文化検定試験
京都商工会議所



夕顔之墳 石標



夕顔宝篋印塔



元伊佐町に建つ「西陣」碑



元伊佐町の町名板



慧光寺外観